

良いとこ自慢・・・自分の園所が自信をもって誇りに思えるような取組
ここを改善・・・主にこれまでの特定教育・保育施設評価の中で課題・改善点として挙げた内容の取組

<p>教育・保育目標</p> <p>「思い合いのある心豊かな子どもたちの育成」 ・明るく元気な子 ・表現できる子 ・遊べる子</p>

【目標達成計画】					
項目	園の現状や取組、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組内容	成果	評価
共通課題	○新型コロナウイルス感染症予防対策について	○感染症から、自分の体を守り、楽しく過ごそう！（子どもも大人も） ・情報や知識を子どもや保護者に知らせ、共有する。 ・互いに自分たちの体が守れるよう、子どもたちも意見を出し合い、一緒に考え、安全で楽しい園生活や遊びを工夫する。 ○みんなで免疫力を高めよう！（元気な体づくり）	○「けんこうかんさつカード」による毎朝の検温と体調観察の実施と継続（保護者へ協力依頼） ○マスクの着用・手洗いの徹底 ・家庭と園全体で習慣化（保護者へアピール） ○感染予防効果があり、子どもが活用し易い「感染予防グッズ」の作成 ・横の友だちが見える手作りシールド ・着脱しやすく、清潔なマスク掛け ・遊びの中のソーシャルディスタンスの検討と実践 ○体全体を動かし、満足感が味わえる遊びを意識した戸外遊び（ぼかぼか広場）の計画と実施 ○保護者へ栄養のある食事と睡眠時間確保等の依頼 ・食育だより発行 ・「本日の献立」の掲示	○保護者と園が連携し、毎朝の検温と体調観察、マスク着用、手洗い等を習慣化することができた。 ※参観日の『参観者健康観察チェック表』提出にも、大変協力的である。 ○「感染予防グッズ」を日常的に使用することにより、子どもたちなりに感染予防を意識している。 ※マスクの着脱のタイミングや正しい着け方、間隔をあける等、子ども同士で伝え合う姿が見られる。 ○友だちと関わりながら、全身を使って熱中して遊ぶことで、体力がついてきていると同時に、食欲もアップしている。（給食のおかわり、苦手な物への挑戦）	・園だより・降園時指導・「健康観察カード」等により、毎朝の検温と体調観察の実施・マスク着用・手洗いの徹底等、感染予防対策の習慣化につなげている。 ・「園だより」や「食育だより」で食事と睡眠の大切さを伝え、また、「本日の献立」の写真を掲示して内容や量をわかりやすく伝え、元気な体作り・免疫力アップに立って、保護者の理解を深める取り組みができています。 ・「免疫力を高める元気な体づくり」を目標に「ぼかぼか広場月案」を作成し、計画的に戸外遊び(鉄棒・上り棒・雲梯・虫探し・落ち葉拾い等)を実施し、身体を使っておもいきり遊び満足感が味わえる取り組みが行われている。子どものアイデアや意見を引き出して取り入れることで、ストレスなく自然に密を避ける取り組みが実施できている。(夏祭りごっこ時に顔の見えるビニールシート・立ち位置マークをつける等) ・給食時の顔の見える手作りの仕切、同じ方向を向いて食事をする配席、マスクかけの作成と工夫、教室・椅子・机・ロッカー・トイレ・マスクかけの定期的な消毒等、「感染予防グッズ」の作成や環境整備を継続的に実施している。
良いとこ	(保育内容面) ○子ども主体の教育・保育を実践している。 ・やりたいことを自ら見つけることのできる環境が整っている。(少人数の良さ、人的、物的、空間) ・毎日の職員会議(分かち合い)が充実しており、全職員が全園児のことを共通理解している。(気になることもうれしいことも共有できる職員関係)	○子ども一人一人にスポットを当てよう！ ・意欲がわいてくるような環境構成を工夫する。(わくわく感、やりたくてうずうずする気持ち) ○最高で最強のチームをめざそう。 ・お互いを信頼する。 ・お互いを敬う。 ・足りないところを補い合う。	○発達段階を意識した保育内容の計画と実践 ・ボディイメージの形成を促す遊びの導入(しっぽ取り、帽子取り、鬼ごっこ等) ○興味・関心に基づいた環境構成の充実(子どものつぶやきをキャッチ) ・旬の自然物や身近な小動物等の直接体験を重視 ・友だちと関わることで発展していく遊びの充実 ・保護者への発表(写真集「みて！みて！」、どんぐり迷路、動物調べ等) ○毎日の職員会議実施 ・本日の保育内容や個々の様子等についての共通理解⇒幼児理解や個人記録の多面的な見直しへ	○子どもが、何に興味を持っているのか、どこが楽しいのか等を探る必要性と重要性を実感することができた。 ※子どもたち一人一人が思いをもって、頑張る姿は、本当に素晴らしいと改めて感じる事ができた。また、友だちの真剣な姿に刺激を受け、他児も挑戦意欲が高まったり、応援したりし、互いに成長が見られた。 ○毎日の職員会議により、各クラス一人一人について、丁寧に分析し、共通理解ができた。 ※個々の課題に向けての改善策も検討でき、教師間の信頼関係が深まった。	・少人数の良さを生かして、教職員の共通理解の元に、子どもたち一人ひとりの意欲を高めるための「環境構成」が考えられており、その中で子どもたち一人ひとりが生き生きと活動している。また、老人会やまちづくり協議会など地域の人財によるサポートを生かして、子どもたちの様々な人・モノ・コトとの出会いを設定し、子どもたちの成長へとつなげる努力がなされている。
自慢！	(管理・運営面) ○幼稚園・保護者・地域・幼稚園、みんなで子どもたちを育てている。 ・保護者は、教育に対し熱心であり、園の教育活動に大変協力的である。 ・二つの公民館(緑が丘・青山)や老人会、まちづくり協議会等との連携が、強力である。	○もっともっと発信力を高めよう！ ・ホームページやクラスだより、連絡帳等により、園生活の様子を発信することで、信頼関係を構築する。 ※何が、どのように子どもの心に響いたのか。人とかかわることの喜びや感謝の気持ちを分かち合う。	○降園指導時の担任のスピーチ ・本日の出来事だけでなく、遊びの中の『学び』についても具体的に報告 ○連絡帳の活用による保護者との連携(写真添付) ○老人会との花植え(夏・秋) ○ホームページ更新、クラスだより、合同のたより(ひがしっこだより)、自然マップ、園だより等の発行 地域のイベントやサークル活動等の活性化の協力 ○チラシの配布や園内掲示 ・青山公民館の作品展、緑が丘町公民館の親子体操協力 ○未就園児との交流「たんぼぼ広場」の開始(11月～) ○	○担任のスピーチや連絡帳、便り、ホームページ等により、「クラスのトピックス」等を保護者に伝えることで、子どもの成長と共に喜び合うことができ、信頼関係が深まっている。 ○感染症対策をしながら、老人会の方(数名)との花植えや公民館での作品展を実施することができた。また、地域の方のお陰で、『大輪の菊との背競べ』や『柿の枝の重さ体験』ができ、地域に愛されている実感や感謝の気持ちを全園児で感じることができた。 9月来より園庭開放を実施し、在園の親子だけでなく、地域の未就園児や1号認定児の利用もある。	・降園指導の時間を作り、担任から保護者に向けて「今日のトピックス」として子どもの様子・遊びの中のねらいや学び・取り組み等を、口頭と資料で詳しく伝えている。直接顔を見て話すことで、保護者の理解が深まり信頼関係の構築につながっている。 ・連絡帳に写真を添付して、園生活の様子をコメントと共に視覚的にも伝えられるよう工夫している。 ・「ホームページ」「園だより」「クラスだより」「東っ子だより」「自然マップ」「給食献立写真」「たんぼぼ広場のお知らせ」等を発信・掲示し、子どもの様子や園の取り組み等を文章と写真で保護者の継続的に伝えている。 老人会の方が柿・菊を持参してくれたり、一緒に花植え体験し、子どもたちが地域の人と関わり、感謝の気持ちを持つ機会を設けている。「タンポポ広場」の開催により、未就園児との乳幼児交流もある。地域の2つの公民館に作品展示参加している。未就園児サークル「きしゃポポ」の開催協力、地域のイベントのチラシの配布や掲示等、地域貢献にも取り組んでいる。
ここを	(保育内容面) ○少人数の集団の弱点を補ってけるように、身の回りのもの・ひと・ことにかかわる機会を大切にしよう。	○もっと伝え合おう！言葉、体、目(表情)！ニヤリホットを見つけよう！ ・分かち合いの質を高める。 ・考える、試す、修正する、調べる、相談する等の活動時間の確保をする。 ・結果(出来栄え)ではなく、過程の姿と子ども一人一人の「心もち」に共感できる保育者をめざす。	○年長児と年少児との関わり重視 ・夏まつりごっこ(お店屋さん)やわくわくカーニバル(合同競技)、互いの遊びの交流(見せ合いっこ)等の活動によって、互いの頑張り認め合いながら、「お互いを思い合う心」へとつなげている。 ○個々の「心もち」に対する受容(安心して自己表現できるクラスづくり・園づくり) ・自分の気持ちを言葉で伝える。 ・態度で表現する。 ・友だちの思いを意識して聞く。	○感染症対策をしっかりとし、少人数園ならではの様々な合同活動を計画・実施することができている。年少と年長の仲が良く、思い合い、助け合いながら、 ・自然な関わり姿が見られる。 ・嬉しい事や楽しい事等、お互いがすぐに隣のクラスに報告し、共感し合っている場面が多々ある。 子ども同士が、一人一人の良いところを認め合い、信頼しているからこそ、場面に応じて任せたり、頼ったり、意見を言ったりすることが自発的にできている。	・新型コロナウイルス感染症対策において、「免疫力を高める」という観点から、保護者・子どもたちとの「情報共有」を大事にして、適切に進められている。園長のリーダーシップが生かされ、目標設定が具体的で「行動目標化」されている。その結果、子どもたち一人ひとりの特性を考慮した保育が職員の共通理解のもと、実践されている。 ・それぞれの子どもたちが抱える多様な課題に対して、理解を深めようと努力されている。また、一つひとつの活動において、その結果だけではなく、その活動の過程での子どもの姿や気持ちを意識して、共感的な指導・支援ができるように尽力している。
改善！	(管理・運営面) ○子どもたちの安全を確保するための方策を実施する。(何が起こるかかわらない、念には念を！) ・危険な行動を見逃さない。 ・危険箇所を発見する。 ・安全点検を徹底する。	○見逃すな！ヒヤリハット！ ・すぐに報告し合おう。 ・しっかり確認しよう。 ・必ず共有しよう。 ○しつこくチェック(園内で)、丁寧に要望(行政へ)！ ・本当に安全か？ ・ピンチはチャンス	○既存の「ヒヤリハット報告書」と「けが等発生報告書」を合体させ、発生場所や状況等、全職員が確実に共通理解できるように改善 ○日々の保育指導案の「評価・反省」から見出した課題や問題点についての協議 ○園庭や遊具等の安全点検の徹底 ・「遊具の安全チェックリスト」による危険箇所や異変状況の早期発見と対策	○記録に残すことで、『けがをしやすい子』を把握することができ、全職員で、再発防止に配慮できている。日々の小さな気づきを話し合い、安全意識を持つことで事故防止を心がけている。 遊具の安全点検中に、セアカゴケグモを駆除することができた。定期的な点検は、職員の安心感にもつながっている。	・既存の書式を見直し、「ヒヤリハット・けが等発生報告書」の書式を作成し、発生状況や危険箇所を全職員で周知できるよう、また効率よく記録できるよう工夫している。また、保育日案・日誌を園長の視点でチェックし、ヒヤリハットにつながる事例を園内研修で取り上げて全職員で話し合い、気づきや新しい発見・予防対策につながるよう取り組んでいる。「ヒヤリハット幼稚園マップ」のさらなる活用を予定している。 ・日々の安全管理に加えて、月2回「遊具の安全チェックリスト」を用いて園内の安全点検を実施し、危険ヶ所や異変を早期発見できるよう取り組んでいる。危険箇所があれば迅速に対応し、職員会議や日誌で情報共有している。(事例として、セアカゴケグモの早期発見と、害虫駆除対策につなげた。)